

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 9日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870105263		
法人名	有限会社MMCドリームサービス		
事業所名	グループホーム フレンド		
所在地	松山市湯渡町3-18MMCフレンド2階 (電 話) 089-945-0002		
管理者	村上慎吾		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月3日

### 【情報提供票より (平成19年5月31日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000円超
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

#### (3) 利用者の概要 ( 5 月 31日現在 )

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 79 歳	69 歳	最高 92 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり (なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり (なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然豊かな住宅地にあり、5階建ての建物内には他にデイサービスと高齢者優良賃貸住宅がある。施設内や外出先で、散歩等を通じて人との交流の機会が多くある。運営推進会議でホームへの理解がすすみ、地域行事へ参加する機会が増えている。職員のあいさつは礼儀正しく明るく、爽やかにホームを訪ね易くしている。管理者はホームのイベントを多く作らず、日常的な生活を利用者のペースでゆっくりと過ごすことで、利用者ができることが多くあると考えている。日中の勤務体制に余裕を持たせていることや配食サービスを利用することで個性のある支援ができるように配慮している。利用者の表情は穏やかでゆったりとしている。医療機関と24時間対応の連携体制ができていたり看護職員をホームや1階のデイサービスに多く配員していることは、利用者や家族の医療面での安心に繋がっている。

### 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回評価後、管理者が改善項目をまとめ、運営者も含め全職員で改善に向けて具体案の検討や実践に繋げている。感染症対策として、流行の情報にあわせ訪問者への手洗い励行や、朝食・昼食後に掃除を行なうなど施設内の衛生管理を利用者の視点で実施するなど今回の調査時多くの改善成果が確認できた。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
管理者が日々のケアサービスを振り返りまとめたものをベースに運営者も含め全職員で話し合い、意識合わせを行なった。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議では、これまでの外部評価結果を踏まえて、取り組んでいる内容や取り組みたいことを報告し、意見をもらっている。また、参加メンバーからの質問や要望などを受け、会議は双方向的なものになっている。メンバーからの会議の意義や役割などの説明で、町内会のホームへの理解も進んでいる。今後も定期的な会議の実施、さらに利用者や家族の多数参加を呼びかけるなどが望まれる。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
毎月の利用料の請求時に担当職員が利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙や写真で伝えている。また、面会時に積極的に声をかけて、小さなことでもお互いに話すことができる関係を心がけている。月に1回は管理者は電話で家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞く機会を持ち、ケアサービスに反映させている。玄関横に意見箱を置き、気軽に意見や要望を出せるようにしている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
毎月の広報誌などでサロン、盆踊りや賞鑑賞会などの地域行事を把握し、町内会長と相談し利用者と共に参加している。管理者は時には裏方で運営に参画している。救命救急講習会や地域住民のふれあいの場として場所の提供をしている。月2回の外出先での人との交流に努めている。中学生の総合学習を継続的に受け入れるなど積極的に地域と関わりを持つよう取り組んでいる。

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!  
ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム フレンド

(ユニット名) グループホーム フレンド

記入者(管理者)  
氏名 村上 慎吾

評価完了日 19 年 5 月 23 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 月二度のカンファレンスで、運営方針について話し合い、具体化し、方針に添った援助を心がけている。 (外部評価) 理念の「心豊かに 穏やかに 自分らしく」は人としての尊厳を大切にすることを柱に運営者の思いを組み入れながら職員全員で話し合い作成したものであり、職員の日々のケアサービスの具体的な行動目標となっている。	※	これまでの理念のあり方に加え、地域との関係性が重視されるようになったことを踏まえ、理念が地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を加味したものか、そのサービスの意義を確認しながらホームで話し合うことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念のキーワードとなる言葉を、皆の見える位置に掲げ、日々実現に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 理念は目に触れ易い玄関横に掲示している。日々の申し送り、月2回のミーティングの際に理念に必ず触れ、共有している。職員は「利用者に無理強いしないように心がける」など日常的な実践につなげている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族へは、月に一度手紙を送付し、利用者の様子・理念など説明しており、地域の方へは運営推進会議を通して説明を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員の出勤時・帰宅時での挨拶は行うようにしている。利用者を伴った散歩時など、挨拶を通して会話を行えるようになっている。	※	地域の「いきいきサロン」での活動に参加を続けることによって、地域の方々が気軽に立ち寄れる関係を作っていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の「いきいきサロン」の行事に参加している。毎月一日・十五日発行の広報誌をもとに、町内会長との連携に努めている。 (外部評価) 広報誌により地域活動の情報を把握し、町内会長と相談し利用者と共に行事に参加している。管理者は時に裏方で運営に参画している。救命救急講習会や地域住民のふれあいの場として場所を提供している。中学生の総合学習を継続的に受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において話し合いは行っている。	※	今後、「いきいきサロン」の行事の中で、職員も運営の手伝いを行っていく予定。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 月二度のカンファレンスを通して、職員の意義の理解を深め、実際に改善に取り組んでいる。 (外部評価) 今回の自己評価は、管理者が日々のケアサービスを振り返りまとめたものを、運営者も含め全職員で話し合い意識統一を図った。前回の外部評価後、管理者は改善項目をまとめ、運営者も含め全職員で改善に向けて具体案の検討や実践につなげている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 月二度のカンファレンスを通して、話し合いを行い、実際に地域への行事への参加など改善に取り組んでいる。 (外部評価) 管理者は地域の行事に裏方として関わりを持つ中で積極的に参加の呼びかけを行なった。会議ではこれまでの評価結果を踏まえて、取り組んでいる内容や取組みたいことを報告し、意見をもらっている。また参加メンバーからの質問や要望などを受け、会議は双方向的なものとなっている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 研修会などの照会など、職員のスキルアップに取り組んでいる。民生委員とも蜜に連携を行って地域行事などに参加している。 (外部評価) 地域包括支援センターのケアマネジャーとは、空室状況やその他情報交換などを行なっているが、市担当者とは、運営推進会議以外ではあまり行き来する機会を持っていない。	※	運営推進会議をきっかけに行き来する機会をもち、ホームの実情やケアサービスの取り組みをよく知ってもらい、サービスの質の向上に継続して共に取り組むことが望まれる。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に活用される人はいないが、協力体制は整っている。制度の理解は、勉強会を適時行い職員間の理解を深めている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス・引継ぎを通して職員間、相互の確認を行っている。	※	今後、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち更なる認識を持つようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の中に、利用者の権利・義務について明記しており、口頭でもわかりやすく説明を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、担当者・管理者が利用者の希望・不満・苦情など聞き入れるよう懇談の時間を持つように心がけている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に一度、請求書と共にそれぞれ担当者が利用者の様子等を手紙で報告し、金銭管理については、レシートと小遣い帳のコピーを同封している。 (外部評価) 毎月担当職員が利用料などの請求時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙や写真で伝えている。金銭については、レシートと出納帳のコピーを同封している。異動により担当が替わった時は、新任者は家族に対し挨拶状を送っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、気軽に意見を表せるようにしている。それをもとにカンファレンスで話し合いを行う。 (外部評価) 職員は、面会時に積極的に挨拶し声をかけ、小さなことでもお互いに話すことができる関係を心がけている。管理者は月に1回は電話で家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞く機会を持ち、ケアサービスに反映させている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に二度のカンファレンスでそれぞれ職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) カンファレンスにおいて、なるべく柔軟な対応ができるように適時話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者本位を第一に最小限に抑えるようにしている。変わる場合は、家族とも相談し対応するようにしている。 (外部評価) 利用者への退職の説明は、早すぎるとダメージがあるので、退職の1週間前後にしている。退職する職員は他の職員と共に利用者のメンタルサポートに努めている。可能な限り引継ぎ期間を十分にとるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員研修プログラムを作成しており、重ねて法人内で二月に一度の研修会、法人外への研修への参加も行うようにしている。 (外部評価) 毎週水曜日にデイサービスと合同カンファレンスや、法人で2か月に1回内部講師による勉強会を開催している。今年度は各職員のレベルに合った外部研修が受講できるように計画を立てている。また職員は1か月ごとに自己目標を立て、自己評価し、管理者と運営者から評価を得ている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 何回か相互訪問は行ったが定期化はしていない。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流の機会を持っている。運営者は日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流の機会として、同業者間で1週間程度の職員の相互派遣に取り組みたいと考えている。	※	今後、質の向上に焦点を合わせて、定期的なネットワークの構築に努めていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 今のところ休憩場所・時間の確保ができていない。	※	今後、場所・時間の確保に努めたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 毎月、各職員が自己目標・評価を行うようにして、それをさらに管理者が評価し、運営者の理解・把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族とともに本人自身の希望を尊重した、アセスメント・懇談の機会をもつようになっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初期段階で管理者を中心に家族の希望等を聴く機会を幾度か作り、その後も定期的に継続して行っている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 在宅介護も視野に入れた、様々なサービス対応を含めた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) カンファレンスによる職員全員での討議、体験入所等取り入れて慎重に初期段階での対応をするように心がけている。 (外部評価) 転入希望者受入に際して、管理者が現ホームや家族と相談し、体験入居を通して今いる利用者の状態等も含めて相互に見極めを行なうなど、入居前にホームの雰囲気を体験してからのサービス利用としている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 理念をもとに普段から職員も含めて、一つの家族として日々の生活をともに送ることを基本として、業務を行っている。 (外部評価) お互いに顔を見つめ合って会話をすることが習慣になっているので、職員が体調不良の時は利用者からの気づかいの言葉がある。職員はつくしや箸が手に入った時は、その料理法を利用者に教えてもらっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が来訪し易い環境作りに努めて、意見交換し易い関係を構築している。運営推進会議にも積極的に参加していただき、ホーム作りに参加していただけるよう、呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 月一度の手紙のやり取りで、本人から家族へ手紙を書いたり、写真を同封したりしてより良い関係の構築を行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人には、手紙を出したり、慣れ親しんだ場所には外出の場所として目的地に選んだりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士でお世話をやいたり、互いに協力し合って、一緒に作業をしたりしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後も電話・手紙等連絡を行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話の中から又は様子等から、希望等意向の把握に努めている。  (外部評価) 家事と一緒にするなど日々の関わりの中で信頼関係をつくり、その中から利用者の言葉を拾い、思いや暮らし方の希望などの把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族など利用者をよく知る方から情報を得るようにしている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族・本人との懇談を通して細かい部分まで把握するように努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤日誌をもとに日々の変化・状況の把握が、職員間でできるように引継ぎを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の意向をもとに、カンファレンスを通してセンター方式を利用して介護計画を作成している。		
			(外部評価) 利用者とは日々の関わりの中で、家族とは面会時や管理者が月に1回電話で現状報告をする際に、思いや意見を聞き反映させている。担当職員が日々の記録をもとにモニタリングしてアセスメント資料とし、管理者が介護計画を立案後、全職員でカンファレンスし、具体的な介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 基本は二ヶ月に一回のモニタリングを行い、適時状況に応じた計画作成を行っている。本人、家族と話し合いの時間をとるようにしている。		
			(外部評価) 以前は毎月見直しを行っていたが、1か月では変化が見られないため、今は2か月毎に見直しを実施している。また、利用者の状況の変化に応じてその都度見直しを行なうこととしている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤日誌・連絡帳をもとに日々の変化・状況の把握が、職員間でできるように引継ぎを行っている。見直しがある場合は適時カンファレンスを行う。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の状況・要望に応じて柔軟な対応ができるように努めている。		
			(外部評価) 日中の勤務体制の工夫で通院付添い、買い物、外泊支援など利用者や家族の要望にあわせて行なっているが、地域住民や利用者が求める多機能性のあるサービスとは何か、どのように提供していけるか模索している。	※	利用者や家族の状況の変化にともない、今後ますますその暮らし方の継続性を守るために、個別性を必要とする臨機応変かつ柔軟なサービスが要望される。先々起こってくることを想定したホームのサービスのあり方を話し合われることを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域資源との協働ができる体制になっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 状況に応じて対応を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護を利用する該当者はいない。地域包括支援センターとは適時相談したり協働の場をもっている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を優先させている。ホームの主治医に変更される方もいれば、これまでのかかりつけの病院に通院される方もいる。 <hr/> (外部評価) これまでのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援ができています。急変時には利用者の主治医に連絡をとり、適切な受療ができる体制になっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 週に一度、往診に来てくださる医師に、指示や助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 一階のデイの看護職員とはすぐに対応できる連携体制が確保できており、ホーム内にも看護職員が二名いる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) ホームの主治医と入院医療機関とで情報交換していただき、適切なケアが提供されて、退院してからも安心して過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 身体的には安定している方が多いため、現段階では全員の家族との話し合いはもてていない。かかりつけ医とは普段から助言・指導をもらっている。 (外部評価) ホームは終末期に対する基本的な対応指針を定め、入居時、利用者や家族に説明しているが、重度化した方が現在いないことなどからターミナルについて意向確認の話し合いは行われていない。	※	今後、それぞれの家族と話し合っていきたい。  ターミナルについての話はホームも家族も双方切り出しにくい事柄ではあるが、できるだけ早期から意向確認をし、利用者にとってどうあるべきか等、ホームが対応できる支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合うことが望まれる。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医の助言・指導をもとにカンファレンスで検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時のダメージ抑止のために、話し合い情報交換を行っている。居室のなじみの家具・仏壇の配置に気をつけるなどの工夫もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応は大体できている。記録等の扱いに関しては、鍵つきの書棚での保管等十分留意して行っている。 (外部評価) 利用者の身体状況や精神状態に合わせた言葉かけや対応ができている。プライバシーに関わる書類は鍵のかかる書棚で管理している。ホーム便りの発行にあたり、運営推進会議でもプライバシーへ配慮したあり方を議題にし、参加メンバーの意見を求めるなど対応に留意している。	※	尊厳ある生活を保障することは、毎回カンファレンス等で確認し合い徹底するようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 十分に時間をかけて、働きかけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに添って支援しているが、「ちょっとまって！」などスピーチロックになりがちな面がある。  (外部評価) 職員は、生活のリズムに配慮しながら利用者のペースに柔軟に対応している。昼食後、食事の後片付け、入浴、洗濯物をたたむ、職員とおしゃべりを楽しむ、家族と過ごすなどその時々利用者の気持ちに添った過ごし方を支援している。	※	尊厳ある生活を保障することは、毎回カンファレンス等で確認し合い徹底するようにしている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) それぞれの意向に合わせて、カットサービスを利用したり、馴染みの理容店・美容室に出かけたりしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 少しのことでも、極力みんなが参加できる形で食事作りをお互いに助けながら行っている。  (外部評価) 調査日は利用者が配膳や盛付け、食器洗いなど手馴れた感じで職員と共にしていた。栄養バランスを考えた配食サービスも利用している。日曜日や祝日のメニューは栄養面だけにこだわったものではなく、利用者の要望を取り入れている。	※	最近、要望の通る業者に換えたところである。咀嚼・嚥下機能の低下が重度化しても調理の工夫で可能な限り口から食べる楽しみが確保できるよう、食の安全面も含め業者とスムーズに話し合える関係づくりを期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の意向に添った対応をしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンの把握のため、カレンダーを作り、時間帯などそれぞれの利用者に合わせて対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的には、時間帯は決めていない。利用者の希望に合わせて確認しながら対応している。  (外部評価) 時間帯は原則として定めていない。希望にあわせ、昼食前だったり、午後から入浴したりしている。服を脱ぐことを嫌がる方には、服を脱ぐまでを声かけの工夫で促し、入浴を支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、不眠の方については、日中体を動かす機会を作って、適度な疲労感をもって頂いたり、日中、居眠りされないように働きかけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) それぞれ役割をもって、助け合いの中で日常生活が行えるように働きかけている。散歩や外出の機会を設けるようにしている。 <hr/> (外部評価) 利用者は全員女性で、手芸より掃除、食事に関する一連のこと、洗濯物たたみなど家事を好み、各々にあった関わりをしている。ホーム内の掲示物を字の上手な利用者にも筆で書いてもらうなど楽しみや役割のある暮らし方を支援している		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の一人一人に応じて、金銭管理を全て本人にしてもらったり、お小遣いといった形で少しだけもって頂いたり様々である。一緒に買い物に行ったりしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気が良ければ、ほぼ毎日散歩に出かけている。希望に添った対応を心がけている。 <hr/> (外部評価) ほぼ毎日夕方頃に近所を散歩する。月に2回外食や買い物に全員で出かけている。日中は勤務体制に余裕を持たせ、買い物など利用者一人ひとりの希望に添った個別支援を行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別での外食・外出なども、希望に添って行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書きたい方には書いていただき、近くの郵便局に出しに行ったりしている。電話はかけたいと訴えがあった時、職員支援のもとにかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来られた時は、きちんと挨拶し、笑顔でお迎えするようにしている。家族や友人の方たちが来て頂き易い環境となるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、玄関に鍵をかけたことはない。玄関を通ればチャイムが鳴るようセンサーを設置しており、外に出ればわかるようにしている。 (外部評価) 職員の見守りで鍵をかけない支援ができており、チャイム音も利用者を戸惑わせるものではない。運営者は、外出の癖が疾病症状からくるものなのか、思いからかを見極め対応することの大切さを日頃より話している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、日勤者がリーダーとなり、把握・安全に配慮している。夜間は、夜勤者が一時間ごとの巡回で対応している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) カンファレンスでの話し合いをもとに、状態に合わせて最小限で危険を防ぐようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止・災害時マニュアルの周知徹底で対応している。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルをもとに、定期的にカンファレンスにおいて確認しあっている。緊急連絡網の周知徹底をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 町内会とも連携をとり、避難訓練も定期的に行っている。運営推進会議でも議題に取り上げ話をしていくつもりである。 (外部評価) 年2回建物全体で利用者と共に避難訓練を行なっている。一人体制の夜間の避難誘導は建物内の高齢者賃貸住宅の利用者と協力体制ができています。町内の防災班とホーム建物一体の防災班と組み合わせた町ぐるみの防災体制の整備に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時にリスク対応について十分に話し合っている。また、適時連携して対応している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 発見時、緊急連絡網等で、速やかに情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個人ファイルに閉じ、全職員が目を通せるようにしている。変更があった場合は連絡帳に記載し、申し送りで確認できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 日中の適度な運動や食事の管理で対応している。便秘が続いている場合は、NSが浣腸している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは、支援して行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量は、適切に確保できるように支援している。 (外部評価) 食事量や栄養バランスは適量が用意されている。ほとんどの利用者が残さず食べている。偏食の方には、好みの物の補食や医師と相談し栄養剤を補うなど個別支援している。水分は好きな時に摂れるよう用意している。喉の渇きを表し難い方はトイレ誘導に合わせて水分補給を促すなど、不足のないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルがあり、周知徹底している。 インフルエンザ予防接種は、毎年行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) その日使用したまな板・包丁などは消毒し、食材は係りを決めて管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ウェルカムボードや花を飾り、季節感を出し、家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には、利用者の方の作品・写真を飾っている。家具は温もりのある木の家具を使用しており、利用者の方の手作りクッションを置いてある。 <hr/> (外部評価) ソファやテーブルなどの家具が程よく配置され快適なスペースが確保され居心地のよい居室となっている。水周りの設備は高齢者にやさしく使い勝手がよい機能を多く取り入れている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ダイニングとリビングが別になっているので、ダイニングで作業されたり、リビングのソファでくつろいだり、ベランダへ出たりと、思い思いに過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、エアコンとカーテンを備えているが、あとは、基本的に持ち込みをしているので、これまで使用されていた馴染みのものを持ってきている。 <hr/> (外部評価) 日中のほとんどをリビングで過ごし、居室を寝室としている方は、使い慣れたものでシンプルに整えている。好きなキャラクターで室内を飾っている方など、利用者の好みに配慮した支援ができています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 日中は、その日の天候や気温に気を付けながら、なるべく窓を開けるようにしている。エアコンも各居室に設置しており、お好みの温度になるよう、調整している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで、要所要所への手すりの設置、浴槽には滑り止めマットを敷いている。トイレは三箇所あり、お待ちいただくことなくいいようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 分かりやすいように、トイレには大きな表示をしてあり、各居室入り口には、メモリアルボードを設置している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダにプランターを置き、花を植えたり一緒に布団や洗濯物を干したりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の日常生活の中で、把握できている。 利用者と話す時間を大事にしている。 センター方式を用いてケアプランを作成し、支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒にレクリエーションをしたり、テレビを見ながらゆっくりと会話をしたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活の中で、無理強いすることなく、ペースに合わせて行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の生活の中で、ともに声を出して笑うことが多々あり、楽しく時間を共有している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望に添って、外出の機会を設けるようにしている。 希望場所が、遠すぎて行けてない場合もある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康面で何かある場合は即時対応している。 ホームの主治医が週一回、往診にこられている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての要望には応えられていない部分がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	連携を密にし、懇談する機会を設けるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	適度に面会に来られている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事に参加したり、情報の提供をしてください。今後も地域の方主催の料理教室をホームで行う予定である。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	勤務時、笑顔も見られ楽しく関係作りも良好である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員も利用者も家族のような関係作りができている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ホームでの食事作りにおいて、根野菜の不足など食事面での不満など。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

安穩でゆとりのある生活作りを目指しています。  
一つの家族として、泣くこともあり、笑うこともあり、怒ることもあり、ともに悲しみ  
時間を共有していきたいと思っています。  
将来、自分自身が入所したい、して良かったと思えるホームを作っていきたいと思っています。